

平成 3 0 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校
 学校長 中 谷 由 美

評 価 日	平成 3 1 年 2 月 5 日 (火)	
	評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どの学校も同じだが、携帯トラブルが増えている現状があり、本校の実態や早期対応はできているか。 ○企業においては接遇を重んじている。生徒の挨拶の向上はあるが、生徒自身の挨拶についての自己評価が低い。日本人の特性もあるが自身につなげることが必要。琴フェスで大きな声で発表する姿を見たが、現場実習ではなかなか声が出なかった生徒もいた。 ○就労率 1 0 0 % が達成できたとともに、就労先の条件が良くなってきている。連続ミニセミナーで先輩に学ぶこと、専門教科内での派遣制度等は効果を上げている。 ○授業公開等の評価から、職員間で生徒の見方について議論したり語ったりする場があったか。 ○参観日の保護者の参加が減少しているのは残念。 <p>2. 取組改善のための提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スマホ・携帯の扱いについては、入学当初から保護者も含めて研修や学習が必要。在学中に、情報モラルについて繰り返し学習を行うことが必要。 ○検証プロジェクトによるデータ分析をして指導に生かされており指導に生かされている。エビデンスに基づくことで、目指す姿が明確になり、目標が絞りやすい。 ○挨拶はバッチや生徒の相互評価など認められる経験を取り入れる工夫をしっかりと。所属欲求、承認欲求、 ○「つながる」がポイント。OB とつながる。先輩と繋がる。保護者も先輩の保護者から学ぶ機会が必要。学校にいる間は情報が得やすいこと、卒業後の生活のほうが長く、保護者の連携が大切なことを考えると、在学中に保護者同志のつながりを作ることは大切。 		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒らの報告、相談が多く、早期の対応は行っているが十分に把握できていない。 ○生徒会とも連携しての挨拶運動等の仕組みづくり (MVP 的な表彰等) ○連続ミニセミナーことや派遣制度は継続して実施する。 ○授業公開に多くの職員が参加できる方法を再検討する。 ○研修で先輩保護者に学ぶ機会を設け、保護者同志のつながりができるようにする。 ○入学者説明会や参観日に保護者へ研修を行う。新入生へは入学前のウェルカム琴の浦や情報の学習の中で学習する。 ○検証プロジェクトは、継続して実施。本年度は、企業アンケートも実施し、集計、分析を実施中。本校の生徒に必要な力について検証し、生徒や職員へ還元する。